大学病院

- 救命救急センターの充実度評価において「Ｓ評価」を取得
- 令和４年度多数傷病者受入訓練を実施
- ５Ｇ 通信を活用した４Ｋ 映像伝送システムとリアルタイム字幕解説を併用した医療者教育における遠隔授業の実証実験を実施
- 男女の消化器外科医による手術成績は同等
- 総合患者サポートセンターを開設

MAKE NEW STANDARDS.
東海国立大学機構 | 岐阜大学

救命救急センターの充実度評価において「Ｓ評価」を取得

【概要】

令和４年４月14日付けで厚生労働省から公表されました「救命救急センターの充実度評価」において、本院の高度救命救急センターが４年連続「Ｓ」評価（※）を取得しました。

また、岐阜県下の救命救急センターにおいて「Ｓ」評価を取得したのは当院のみとなります。

年々「Ｓ」評価に対する評価基準が厳しくなっている中、「Ｓ評価」が取得できたことは、施設面はもちろんのこと、本院の高度救命救急センターが、地域の中で最後の砦として周辺の病院群と連携を持ちながら高度な医療を展開してきたことが評価されたものと考えています。

本院は今回の「Ｓ評価」の取得を機に、今後も地域の中で最後の砦として周辺の病院群との連携を強化して高度な医療を展開していきます。

（※）平成30年度分の評価から、ストラクチャーを中心とした評価体系から、プロセスも含めた評価体系へ見直しが行われ、地域の関連機関との連携の観点からの評価も追加されました。

ドクターヘリ

令和４年度多数傷病者受入訓練を実施

【概要】

令和４年５月27日(金)、バスの交通事故を想定した多数傷病者受け入れ訓練をトリアー ジ施設及び本院１Ｆで実施しました。
この訓練は、多数傷病者を受け入れる際の病院における初動体制整備・確認に重点を置き、関係機関との連携や、本院の基幹災害拠点病院としての対応能力向上を目的として毎年実施しています。

当日は、医学科４年生が医師役、患者役、家族役、報道役として参加し、医療チームの立ち上げから、問診等を行い新型コロナウイルス感染疑いの有無、重症度によって治療の優先順位を決める「トリアージ」、診療、治療や入院先決定まで一連の模擬治療活動を当院の医師や看護師ら医療スタッフと共同で行いました。
この訓練に参加した医学科４年生は「患者さんが次々と搬送されてくる中で優先順位をどのようにつけるか悩んだ。スピードと質を両立する難しさを改めて感じた」と振り返り、救急災害医学講座の鈴木医師は「こちらの想定していたものを上回る学生もおり、とても勉強しているように感じた。この経験を踏まえ、東海地方の災害に対応できる医師になってほしい」と述べました。

当院は、今後も災害時に備えた実地訓練を重ね、地域の皆さんが安全・安心に過ごせるよう努めてまいります。

訓練の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2022/5/28	岐阜	医学生，トリアージ訓練　岐阜大病院　容体急変も想定 ～ 医学部４年　奥村駿介さん ～

５G 通信を活用した４K 映像伝送システムとリアルタイム字幕解説を併用した医療者教育における遠隔授業の実証実験を実施

【概要】

令和４年６月23日（木）、東海国立大学機構岐阜大学と株式会社 NTT ドコモは、岐阜大学医学教育開発研究センターおよび岐阜大学医学部附属病院の協力を得て、５G を活用した医療者向け遠隔授業支援を目的とし、４K 映像伝送システム「LiveU（ライヴユー）」とリアルタイム字幕生成ソフトを用いた、医学生向け手技教育の授業をリアルタイム配信する実証実験（以下、本実験）を実施しました。

本実験は、岐阜大学医学部医学科生への遠隔授業による外科的手技教育を目的としています。この教育ではまず、消化器外科指導医がヘッドセットのカメラを通じて、外科縫合手技を実演かつ中継し、実況解説音声付き４K 映像を「LiveU」からドコモの ５G 回線を介して伝送します。そしてこの映像を受信した別の外科医による副音声解説を自動で字幕化して映像に追加、これを別教室や自宅にいる学生へ「リアルタイム遠隔授業」として配信するものです。これにより術者目線での縫合糸と繊細な手元の動きと音声・文字情報を遅延なく、同一画面で視聴させることが可能となります。対面授業では伝えられなかったリアリティ溢れる視野で手技を学ぶ、新たな授業スタイルを検証する取り組みです。

本実験により、学生は、手術手技映像を術者目線により、リアルタイムかつ文字情報付きで視聴することが可能になり、コロナ禍において失われた教育機会の補填以上の付加価値がもたらされます。岐阜大学は本実験を通過点と捉え、実証で得た課題などを分析し、さらなる医療者教育の発展を進めていきます。更には、本実験により専門性の高い高難度手術手技の伝達・教育が可能となれば他病院の医師との連携や医師不足が指摘されている過疎地における医療支援、医療格差をも軽減できる可能性を秘めています。岐阜大学では診療科の枠を超えた遠隔医療支援、ICT による教育のさらなる展開をNTT ドコモと共に進めていきます。またドコモは今後の医療現場における高精細リアルタイム映像伝送の利活用の可能性を探り、５Gを活用しさらなる低遅延かつ高精細な医用映像伝送の実現につなげていきます。

〔本実証実験のイメージ図〕

５Ｇ通信を活用した４Ｋ映像伝送システムとリアルタイム字幕解説を併用した医療者教育における遠隔授業の実証実験を実施

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2022/6/24	岐阜	５Gで手術「遠隔実習」　岐阜大とドコモ，新システム手元鮮明、解説を自動で字幕化　～ 医学部消化器外科　松橋延壽　准教授、医学部５年　小島一真さん ～
2022/6/24	中日	先生のオペ ５Gで間近に　岐阜大とドコモ　配信実験　医学生向け　学習効果アップへ　　～　医学部消化器外科　松橋延壽　准教授、医学部５年　小島一真さん ～

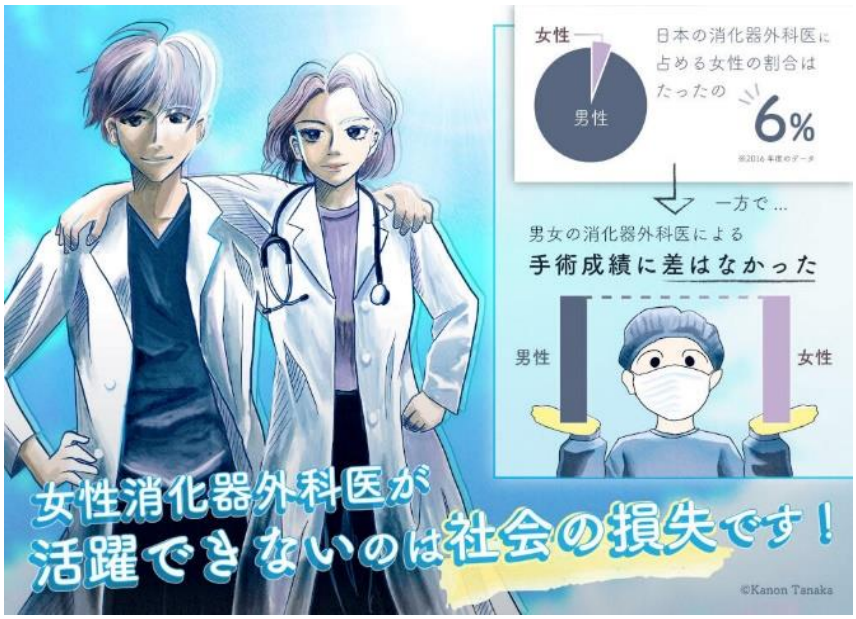
男女の消化器外科医による手術成績は同等
― 女性消化器外科医のさらなる活躍に向けて ―

【概要】

岐阜大学の吉田和弘 教授(研究当時、現:岐阜大学学長)、京都大学大学院医学研究科の大越香江 客員研究員、藤田悠介 同医員、肥田侯矢 同講師、東京大学大学院医学系研究科の野村幸世 准教授、大阪医科薬科大学の河野恵美子 助教、日本消化器外科学会の北川雄光 理事長らの共同研究グループは、日本消化器外科学会による日本最大の手術データベースNational Clinical Database（NCD）を利活用した研究において、男女の消化器外科医が執刀した手術の短期成績を解析しました。日本の消化器外科医における女性の割合は６％程度と少ないですが（2016年当時）、年々増加傾向にあります。しかし、指導的立場の女性消化器外科医は未だ少ないのが現状です。そこで、男女の消化器外科医による手術成績に差があるのか、女性が外科医として十分活躍できる存在であるのかを調査することを目的として、本研究を行いました。

研究の結果、女性消化器外科医は全体として男性よりも医籍登録後の年数が短く、腹腔鏡手術執刀の割合が少ないものの、よりリスクの高い患者を手術していたことが分かりました。また、病院の規模や患者の背景を調整して比較した合併症や死亡率の調整リスクには、男女間で有意差はありませんでした。つまり、女性消化器外科医の手術短期成績は男性消化器外科医と同等であると言えます。今後、女性医師がさらに消化器外科領域で研鑽を積んで活躍するために、男女外科医に均等な教育の機会を提供するとともに、より多くの女性外科医を育成するための環境づくりが期待されます。

本研究成果は2022年９月28日（現地時刻）にイギリスの国際学術誌「The BMJ」にオンライン掲載されました。



総合患者サポートセンターを開設

【概要】

令和５年１月１日より患者さんが安心して生活を送ることができる医療を目指し、入院前から入院中、退院後を見据えるために、総合患者サポートセンター（Center for Patient Flow Management：CPFM）を設置しました。

当センターは、医療連携部門、入退院支援部門、相談支援部門の３つの組織から構成されており、患者さん一人ひとりの状況に応じた一連の医療を提供するために、効率的・総合的なサポートを実現し、院内のチーム医療の充実はもとより、地域との医療介護連携を円滑に図ることを目的としています。

総合患者サポートセンター業務概要マトリックス

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/1/31	朝日	ワンストップ対応　患者窓口　岐阜大病院にサポートセンター　～ 医学部附属病院総合患者サポートセンター　清水雅仁　センター長 ～